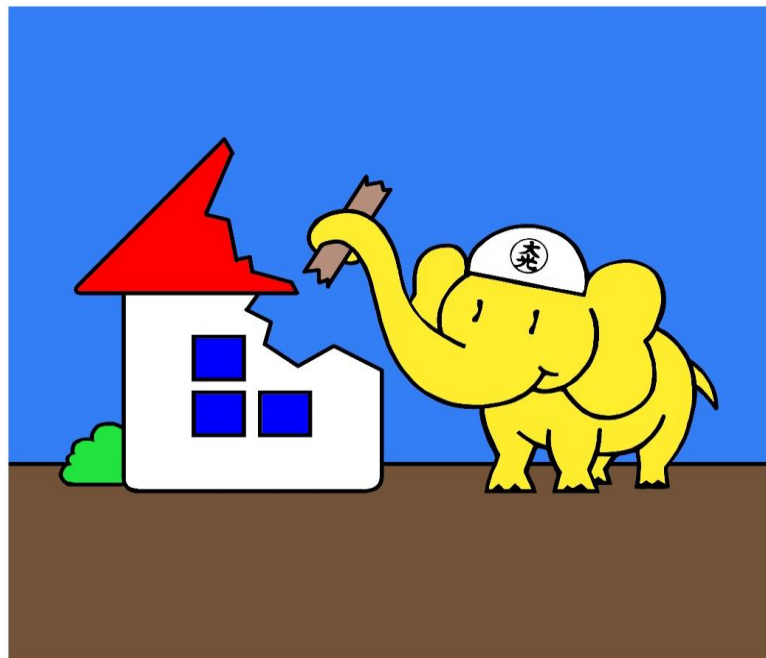


大矢建設工業株式会社

2023年度環境経営レポート

(対象期間:2023年6月～2024年5月)



作成日 2024年6月19日

更新日: 2025年2月4日

目次

I 環境方針

II 組織の概要

III 環境経営目標とその実績

IV 環境経営計画、取組結果とその評価、次年度の目標及び取組内容

V 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価並びに違反、訴訟等の有無

VI 代表者による全体評価と見直しの結果

VII 産業廃棄物処理組織の概要

環境経営方針

当社の会社理念は、次のとおりである。

- 一、お客様に愛されなければ、会社は良くならない。
- 二、社員に愛されなければ、会社は良くならない。
- 三、このまちが良くなければ、会社はよくならない。

当社は、自然豊かな当地域の環境保全への取り組みを、最重要課題の一つとして位置づけ「自然と調和した快適空間の創造」を推進するために、環境問題へ積極的に取り組み、環境に配慮した継続的な改善活動を行う。

◆行動指針◆

1. 事業活動のあらゆる面における環境影響を的確に捉え、技術的、経済的に可能な範囲で積極的に環境保全に取り組む。
 - (1) 産業廃棄物の中間処理業務において、建設機械及び破砕機からの排気ガスの発生を抑制する。
 - (2) 製造販売業務において、木くずのリサイクルを積極的に促進する。
 - (3) 製造販売業務において、廃プラスチックのリサイクルを積極的に促進する。
 - (4) 当社の業務全般にわたり省資源を推進する。
 - (5) 土木構造物築造及び解体工事において、建設機械からの排気ガスの発生を抑制し分別解体の促進をする。
2. 環境保全に有効な環境マネジメントシステムを構築・運用し、環境保全活動の継続的な改善及び汚染の予防に努める。
3. 環境関連の法規制等及び当社が同意するその他の要求事項を順守する。
4. 環境目的・目標、環境実施計画を定め、これらの達成を確実にするため必要に応じ内部監査を行い、環境マネジメントシステムの見直しを図る。
5. 環境教育活動を推進し、全従業員及び当社のために働くすべての人に環境経営方針を周知し、意識と知識の向上を図る。
6. 環境経営方針は、外部からの要求があった場合には一般に公開する。
7. 学生に対して職場訪問を積極的に受け入れ環境問題を共有する。

制定日 2013年3月8日

改訂日 2024年4月1日

大矢建設工業株式会社

代表取締役 大矢 進

Ⅱ 組織の概要

1 名称及び代表者名

大矢建設工業株式会社 代表取締役 大矢 進

2 所在地

本社: 青森県青森市大字野沢字川部63番地
産廃計量所: 青森県青森市大字野沢字川部8番1
産業廃棄物中間処分場: 青森県青森市大字野沢字川部1番1外
荒川事務所: 青森県青森市大字荒川字品川126番地1
第2工場: 青森県青森市大字小畑沢字小杉68番地21
盛岡支店: 岩手県盛岡市南大通3丁目4-19 大矢建設工業(株)ビル4F

3 環境管理責任者及び担当者連絡先

責任者	工事部長	横山 義浩	TEL:	017-739-5205
担当者	営業部環境課課長	大矢 一光	TEL:	017-739-5205

4 事業活動の内容(青森県での事業内容)

特定建設業 青森県知事許可(特—3)第9101号
解体工事業 土木工事業 とび・土工工事業 石工事業
鋼構造物工事業 舗装工事業 しゅんせつ工事業
塗装工事業 水道施設工事業

一般建設業 青森県知事許可(般—3)第9101号
建築工事業 大工工事業 屋根工事業
タイル・れんが・ブロック工事業 内装仕上工事業

産業廃棄物中間処分業 許可番号 10822020616
産業廃棄物収集運搬業 許可番号 00200020616
特別管理産業廃棄物収集運搬業 許可番号 00250020616
一般廃棄物収集運搬業 許可番号 青市指令廃対第90号

5 事業の規模

施工件数	355 件(2023年度)
廃棄物の収集運搬量・処分量	37,049.39 t/年
従業員数	93 人
本社事業所・産廃計量所の延べ床面積	399 m ²
荒川事務所の延べ床面積	469 m ²

6 対象範囲(認証・登録範囲)

当社の全活動・全組織を対象範囲とする。

7 事業年度

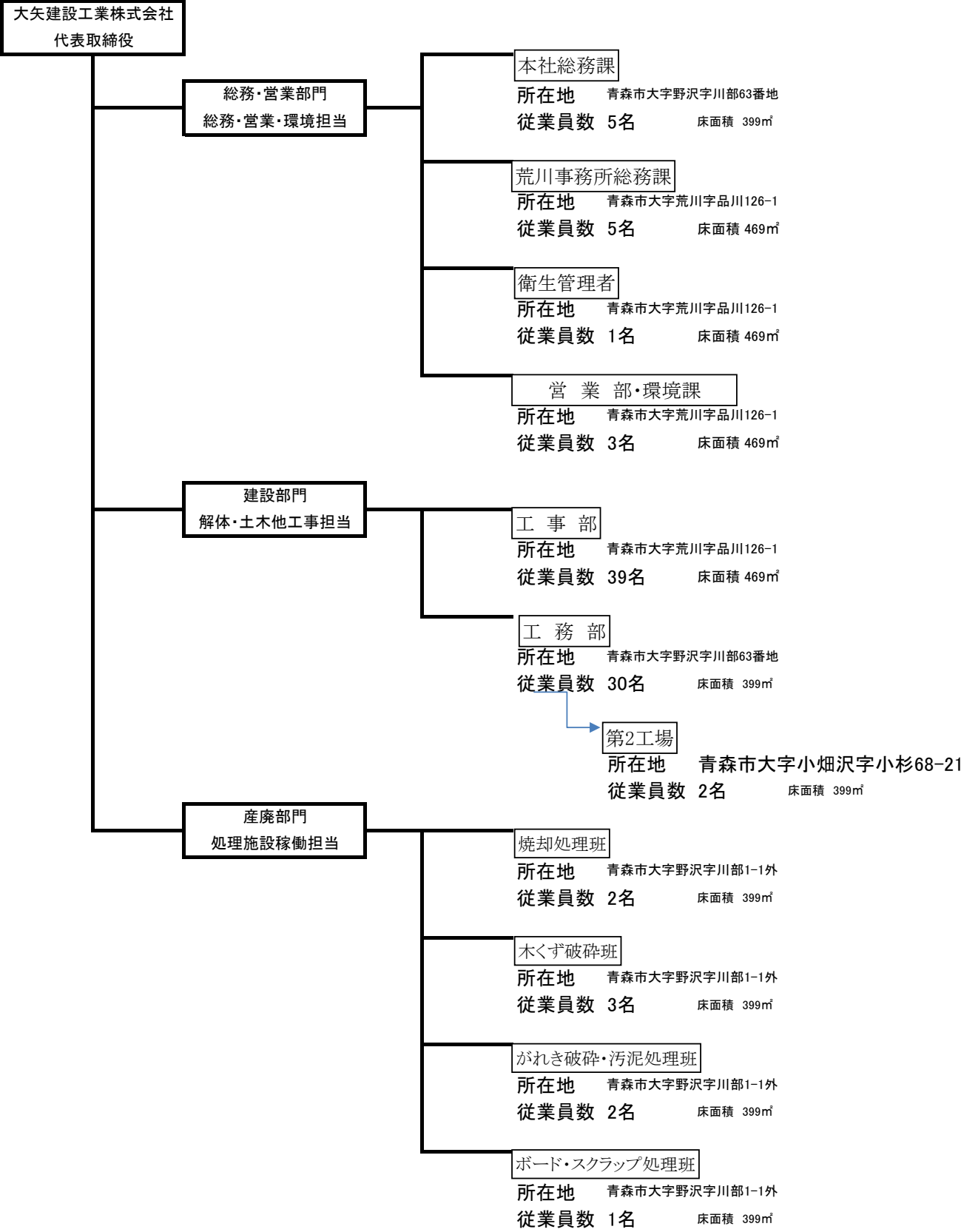
毎年6月～5月

8 環境活動レポートの対象期間

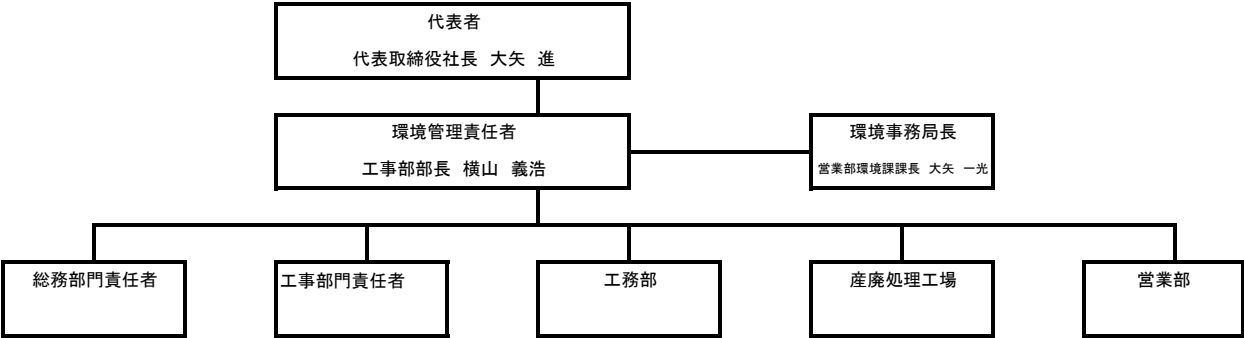
対象期間: 2023年6月～2024年5月

大矢建設工業株式会社組織図

令和6年4月1日現在



EA21実施体制図



環境経営システム 役割・責任・権限表

	役割・責任・権限
代表者(社長) 大矢 進	・環境経営に関する統括責任。 ・経営における課題とチャンスの明確化 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備。 ・実施体制を構築 ・代表者による全体の評価と見直しを実施。 ・環境経営方針の策定及び周知徹底
環境管理責任者 工事部部长 横山 義浩	・環境経営システムの確立・実行・維持 ・問題点の是正処置及び予防処置の実施、決定 ・環境経営システムの実施状況を社長へ報告 ・環境教育・訓練計画の立案及び実施 ・環境経営システムの記録の管理 ・環境関連の外部利害関係者への窓口 ・緊急事態への対応及び処置 ・法的要求事項及びその他の要求事項の特定・改訂の確認 ・外部利害関係者に対する情報の公開
環境事務局 大矢 一光	・環境管理責任者の補佐 ・各工事現場・廃棄物処理施設の記録の管理 ・環境目標、環境活動計画書の作成 ・環境活動のチェック表等の実績集計 ・環境方針の内部への周知 ・問題点の発見・是正・予防処置の実施及び社内への周知・記録の管理
部門責任者	担当部門について環境経営システムを実施し、維持する。 ・省資源、省エネ、節水等の奨励・実施。 ・従業員に対する教育訓練の実施 ・現場ごとの施工計画の策定と養生方法の決定 ・環境活動のチェック表等の実績集計 ・環境方針の内部への周知 ・問題点の発見・是正・予防処置の実施及び社内への周知・記録の管理
全従業員	・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加。 ・取組に関する教育を受け省資源、省エネに努める

Ⅲ 環境目標とその実績

1 主な環境負荷の実績

当社は、主に建築解体工事、産業廃棄物処理などを中心とした事業活動を行っており、環境負荷は表1の通りです。

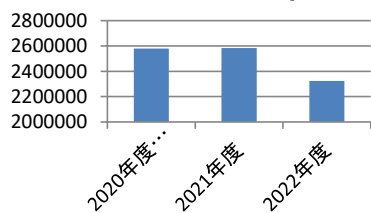
二酸化炭素排出量については、工事に使用する重機、廃棄物の収集運搬車両、廃棄物の中間処理処分活動が主な排出源であり、2022年度は2,323,182.07kg-CO₂/年です。

表1、主な環境負荷等の実績

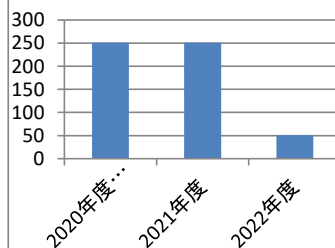
項目	単位	2020年度 (基準年)	2021年度	2022年度
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂ /年	2,578,878	2,582,942	2,323,182
受託した産業廃棄物の収集運搬量・処分量	t/年	59,772	60,596	91,328
一般廃棄物排出量	t/年	251	251	51
産業廃棄物最終処分(埋立)量	t/年	3,249	3,604	4,358
水使用量	m ³ /年	614	131	146
化学物質使用量	t/年	0	0	0
地域貢献活動	件数/年	5	5	5

(注)購入電力の二酸化炭素排出量の算定に使用した排出係数0.528kg-CO₂/KWhは、令和元年度実績R2.1.7環境省・経済産業省公表 東北電力㈱の調整後排出係数

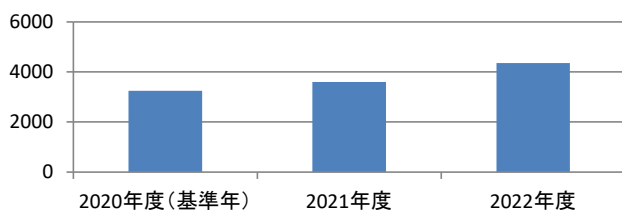
二酸化炭素排出量 t-CO₂/年



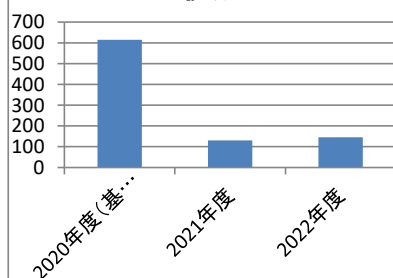
一般廃棄物排出量 t/年



産業廃棄物最終処分(埋立)量 t/年



水使用量 m³/年



2 環境経営目標の設定

表2-1 環境経営目標

6月～5月まで

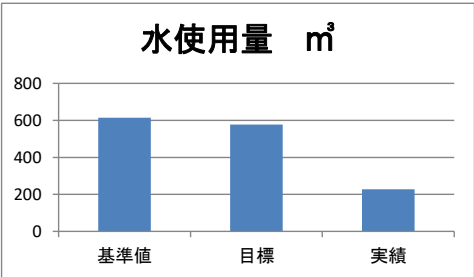
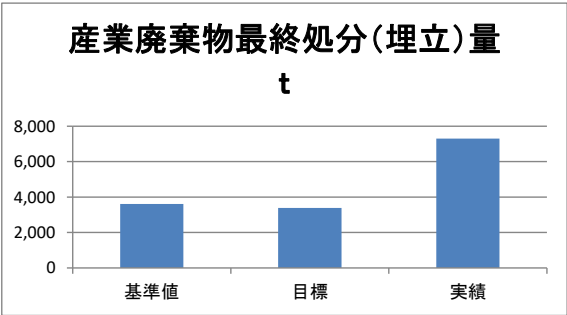
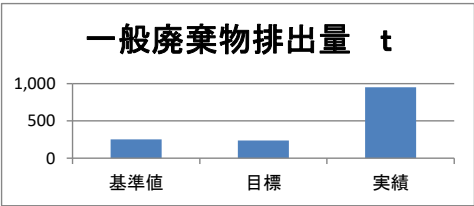
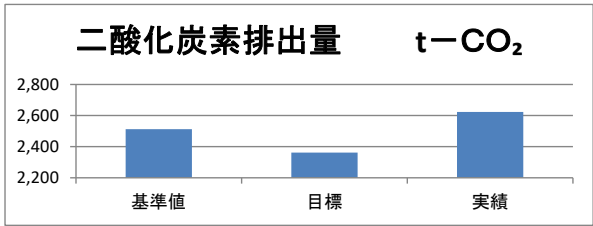
コア指標	環境方針	環境経営目標項目	削減率又は増加率(%)	基準年	年度毎目標値 (基準年度に対する削減(増加)率)			備考
			単位	基準値	2021年	2022	2023年	
二酸化炭素排出量	省エネルギーの推進	電力の削減	削減率(%)	2020	2	4	6	
			kwh	1,070	1049	1027	1006	
		灯油の削減	削減率(%)	2020	2	4	6	
			L	20,171	19768	19365	18961	
		A重油の削減	削減率(%)	2020	2	4	6	
			L	25,850	25333	24816	24299	
	二酸化炭素排出量の削減	ガソリンの削減	削減率(%)	2020	2	4	6	
			L	88,217	86453	84,688	82,924	
		軽油の削減	削減率(%)	2020	2	4	6	
			L	874,974	857475	839975	822476	
廃棄物排出量	一般廃棄物の削減	ごみの削減	削減率(%)	2020	2	4	6	
			kg	251	246	241	236	
	産業廃棄物の削減(自社分)	最終処分(埋立)量の削減	削減率(%)	2020	2	4	6	
			t	3,610	3,538	3,466	3394	
水使用量	節水	節水	削減率(%)	2020	2	4	6	
			m ³	614	601.72	589	577	
化学物質		化学物質の管理推進	-	2020	・(行動目標)化学物質については、漏洩等が無いよう適正に管理し、定期的に確認します。			
			kg	—				
自らが施工・販売・提供する製品の環境性能の向上及びサービスに関する環境配慮		環境に配慮した施工の推進	-	2020	・(行動目標)建設現場においては、環境に配慮した作業・施工を推進し、定期的に確認します。			
		建設廃棄物の適正処理	再資源化率(%)	90	91	92	93	
受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮		収集運搬・処分作業業務における環境配慮推進		2020	・(行動目標)受託した産業廃棄物の収集運搬及び処分においては、環境に配慮した作業・業務を推進し、定期的に確認します。			
地域貢献	地域貢献活動の推進	清掃活動等	増加率(%)	2020				
			件数	6	6	6	6	

購入電力の排出係数は、令和元年度実績 R2.1.7環境省・経済産業省公表 東北電力㈱の調整後排出係数0.528

3. 環境経営目標の実績

表3 当該年度の環境経営目標の達成状況等

コア指標	環境方針	環境目標項目	単位	基準値 2020年度※	※6月～5月 2023年※			環境目標の 達成状況
					削減(増加)率(%)	目標値	実績値	
二酸化炭素 排出量	省エネルギー の推進	電力の削減	kwh	2020年度 1,070	6	1005.8	507.9	達成
		灯油の削減	L	2020年度 20,171	6	18960.7	12008.0	達成
		A重油の削減	L	2020年度 25,850	6	24299.0	0.0	達成
		ガソリンの削減	L	2020年度 88,217	6	82924.0	89992.5	未達成
		軽油の削減	L	2020年度 874,974	6	822475.6	924134.2	未達成
		二酸化炭素排 出量の削減	kgCO ₂	2020年度 2,512,887	6	2362113.9	2623217.0	未達成
	一般廃棄物の 削減	ごみの削減	t	2020年度 251	6	235.94	950	未達成
廃棄物排出 量	産業廃棄物の 削減(自社分)	最終処分(埋立)量の削減	t	2020年度 3,610	6	3393.4	7295.58	未達成
水使用量	節水	節水	m ³	2020年度 614	6	577.16	227.9	達成
化学物質		化学物質の管理推進	kg	2020年度 —		行動目標		—
自らが施工・販売・提供する 製品の環境性能の向上及び サービスに関する環境配慮	環境に配慮した施工の推 進		件数	2020年度 —		行動目標		—
		建設廃棄物の適正処理	再資源化率	2020年度				未達成
			(%)	90	—	93	80	
受託した産業廃棄物の収集 運搬・処分における環境配慮	収集運搬・処分作業業務 における環境配慮推進	件数	2020年度 —			行動目標		—
その他	地域貢献活動 の推進	清掃活動等	増加率(%) 件数	2020年度 6	—	5	5	達成



IV. 環境経営計画、取組結果とその評価、次年度の目標及び取組内容

表4 主な環境活動計画の内容

環境方針	環境目標項目	取組内容	実施状況の評価	取組み結果	次年度の目標・取組内容		
二酸化炭素排出量削減	電力の二酸化炭素の削減	①事務室等の灯は昼休み等の不必要な時は消灯している	○	冷房温度の27℃、クールビズは、定着しつつあり、環境目標達成につながった。	二酸化炭素排出量の削減 kgCO ₂ 基準値: 2,582,942 削減率: 7% 目標値: 2,402,136		
		②使用時以外PCの電源を落とす					
		③空調管理の徹底(冷房27℃、暖房20℃)					
		④無理・無駄のない安定運転(中間処理施設)					
		⑤不使用機器・設備の待機電力カット					
	重機等の燃料の二酸化炭素削減	①エコドライブ等運転方法の配慮(急発進・急加速や空ぶかしの排除、駐停車中のエンジン停止等)を励行している	○	エコドライブ講習会に参加した社員による社内教育で社員に根付いてきている。重機の入れ換えは多額の費用が掛かるので耐用年数が過ぎた重機から入れ換えているため、今後の経過観察が重要と思われる。			
		②古い重機とハイブリッド式の重機を順次入れ替えている					
		③排出ガス対策型建設機械の利用					
		④重機等の作業効率向上(中間処理施設、解体現場)					
		⑤省エネ運転の徹底(廃棄物収集運搬業務、解体現場等)					
	灯油・LPG等の二酸化炭素の削減	①灯油ヒーター等の暖房温度(20度程度)の設定管理を徹底している	○	灯油は施設の稼働に必要な分以外削減出来ている。現場事務所でも灯油を使用しない暖房の導入が進んできているため、さらなる削減が期待できる。			
		②施設・現場事務所以外では灯油ヒーターを使用しない					
		③					
	廃棄物排出量削減	一般廃棄物の削減	①使い捨て製品(紙コップ、使い捨て容器入り弁当等)の使用や購入を抑制している	○		廃棄物発生量は前年よりも削減出来ている。	一般廃棄物kg 基準値: 251 削減率: 7% 目標値: 233 最終処分(埋立)量t 基準値: 3610 削減率: 7% 目標値: 3357 焼却炉の火災により、最終処分排出量が増加している。しかし焼却炉が復旧すれば減るのは確実のため、復旧までは選別を細かく行い再資源化可能な量を増やすことに注力する。
			②社内資料はミスコピー等の裏紙を使用し紙の使用量を削減している				
③帳票簡略化、配布資料など印刷物の削減(事務部門)							
④社内書類の電子化による紙使用量の削減							
⑤							
産業廃棄物(自社分)の発生抑制		①工事現場内での分別解体を徹底し、最終処分に出す廃棄物量を削減している	○	分別・リサイクルが進み最終処分に出す量が減少してきている。			
		②廃棄物リサイクル後の残さは再度設備に投入し、リサイクルしている					
		③再資源化・有価物化の推進、残渣・汚泥の水分率の低下(産廃部門)					
		④3R・建設発生材の再資源化の推進、建設廃棄物の分別徹底(解体部門)					
		⑤					
水使用量削減	節水	①焼却炉及び木くず破砕機に冷却水を使用するため、使用後の水を循環させる仕組みを導入している	○	焼却炉の更新を行った結果、水の使用量が削減された。木くず破砕施設の水使用量については、防火も兼ねているため安全上の観点から現状を維持する。	水使用量m ³ 基準値: 614 削減率: 7% 目標値: 571 廃棄物発生量の削減に更に取り組むとともに、更新した焼却炉での水使用量の注視。木くず破砕施設での少ない水使用量で防火機能が保てるかの検討を行ったが、現状の施設では水使用量を削減した場合発火の危険があるため現状の使用量を維持する。		
		②漏水を定期的に確認(産廃部門各施設)					
		③洗車用ホースのストップノズル利用の確認					
化学物質の管理推進		①有害性の化学物質について、その種類、使用量、保管量、使用方法、使用場所、保管場所等を経時的に把握し、記録・管理している。 ②・アスベスト除去工事の剥離剤等頻繁に使用するものではないが、使用時に量・保管方法に注意する。		処分場から有害物質が出ることは無いが、解体工事で発生することがあるため出てきた場合は法令に則り対応する。	有害物質については法令を遵守し対応する。		

環境に配慮した施工の推進	①低燃費型のハイブリッド式重機に順次入れ替えている。	○	重機の入換えは多額の費用が掛かるので耐用年数が過ぎた重機から入れ替えている。各工事現場での法令順守及び現場周辺環境への配慮が出来る。	重機・車両共に入れ換えには多額の費用が掛かるため、耐用年数及び自社の財務状況等を勘案して更新していく。
	②囲い、シート養生、散水等により粉塵の発生を防止している。			
	③工事中の騒音振動、機械工具による排気ガスの発生を各法令に則り極力防いでいる。			
	④待機時間の確認・見直し、鉄板敷設など土砂飛散防止、ダンプの泥等による公道の汚染防止(解体・土木工事現場)			
	⑤分別解体、現地での再利用等を行い、廃棄物の発生を抑制する。			
収集運搬・処分作業業務における環境配慮推進	①収集運搬車両を順次ハイブリッド車に入れ替えている。	○	車両の入換えも多額の費用が掛かるので耐用年数が過ぎた車両から入れ替えている。木くず破砕施設を電気稼働の施設に更新したため、軽油の使用量は若干増えた。	
	②木くず破砕施設を電気稼働の施設に入れ替えた。			
	③顧客への分別提案・徹底依頼、再資源化情報の提供・提案、危険物等の混入防止の依頼			
	④・廃棄物や汚水の飛散・漏えいが無いよう配慮している、事故防止及び事故発生時における対応マニュアルを作成する等、必要な体制の整備を図っている			
	⑤施設・設備の運転管理及び維持管理について、会社独自の体制等を設けて実施している、リサイクル品の販売促進に積極的に取り組んでいる			
・社会貢献 ・その他	①水辺のサポーターとして地元河川の環境保全に役立つ。	○	水辺の環境保護活動及び工事現場周辺、処分場周辺の清掃活動は近隣からの評価も良いため継続していく。小・中・高等学校の生徒たちの職場体験の受入れは、雇用の増加にも繋がるため継続していく。	清掃活動等 基準値:5 削減率:0% 目標値:5 等周辺住民や公的機関からの評価も良いため今後も継続して行っていく。 職場体験の受入れは雇用の増加に実際に効果があるため、今後も継続して行っていく。
	②工事現場周辺及び処分場周辺の清掃活動を行うことで近隣環境及び地域社会に貢献する。			
	③地域活動への参加・支援			
	④国境なき医師団活動の支援			
	⑤県内各小・中・高等学校の生徒への職場体験の受入れ			

○:評価出来る、△:まずまず評価できる、×:評価できない

環境活動の状況



解体工事現場周辺の清掃活動



土木工事現場周辺の清掃活動



産業廃棄物中間処分施設上空写真



川辺の清掃活動(水辺サポーター)



工事現場内産廃分別指導等施工検討会写真



工事現場朝礼

V 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価並びに違反、訴訟等の有無

環境関連法規等について一覧表に取りまとめ、遵守状況を確認したところ違反はありませんでした。
施設周辺の住民からの苦情もありませんでした。
また、過去3年間関係当局からの違反等の指摘、訴訟についてはありません。
各工事現場での苦情等についても問題ありません。

法規制等の名称	該当する要求事項	遵守評価		確認資料等
		確認	評価	
建設業法	特定建設業の許可、一般建設業の許可	○	○	許可証
建設リサイクル法	対象建設工事の届出、	○	○	届出書
	発注者への説明・完了報告	○	○	完了報告書
	建設資材引渡完了報告書の提出	○	○	
		○	○	
廃棄物処理法	産業廃棄物の適正処理(処分)	○	○	産廃処理委託契約書又は建設
	産業廃棄物の適正処理(収集運搬)	○	○	産廃処理委託契約書
	産業廃棄物管理票の交付	○	○	マニフェスト
	産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出	○	○	管理交付等状況報告書
	産業廃棄物処理実績報告書の提出	○	○	処理実績報告書
	産業廃棄物処理計画書の提出	○	○	処理計画書
	産業廃棄物保管基準の遵守	○	○	現場明示
	産業廃棄物収集運搬業許可	○	○	許可証
	産業廃棄物処分業許可	○	○	許可証
	一般廃棄物収集業者許可証	○	○	許可証
騒音規制法	特定建設作業の届出書			該当作業無し
振動規制法	特定建設作業の届出書			該当作業無し
大気汚染防止法	一般粉じん発生施設の届出	○	○	届出書
	特定粉じん排出作業の届出書	○	○	届出書
消 防 法	危険物保管の指定数量以上の許可			指定数量以上の保管無し
	少量危険物取扱所の届出、消防阻害物質届出			
	貯蔵所・取扱所の基準の遵守等			
フロン排出抑制法	エアコンの定期点検	○	○	点検表
設計図書・特記仕様書	・施工中の環境保全(排出ガス対策型・低騒音型機械の使用)	○	○	契約書・施工計画書
	・材料(環境への配慮)	○	○	
	・発生材の処理	○	○	

VI 代表者による全体評価と見直しの結果

エコアクション21に切り替えると決定してから、試験的に活動を行ってきました。
社員の意識改革を図り、各工事現場及び廃棄物中間処分場と各事務所、車両活動での
環境汚染の予防並びに環境保護に努めました。

各リサイクル率は良い結果となり、目標値達成のために今後更に細かく
選別・リサイクルを進めてまいります。
二酸化炭素排出量は、現在2,491,270.79kg-CO₂/年であり
今後排出量を1.0%下げれるよう努力してまいります。
廃棄物排出量、水使用量等その他の管理項目につきましても
排出量を減らすために工法の工夫、設備の見直し等を行ってまいります。

以前まで行っていたISOの取組を流用しているため、今後も継続し改善していくには
社員の意識の統一と情報の周知、各管理職一同との検討会等を行っていき、
全社一丸となって取り組んでいこうと考えております。

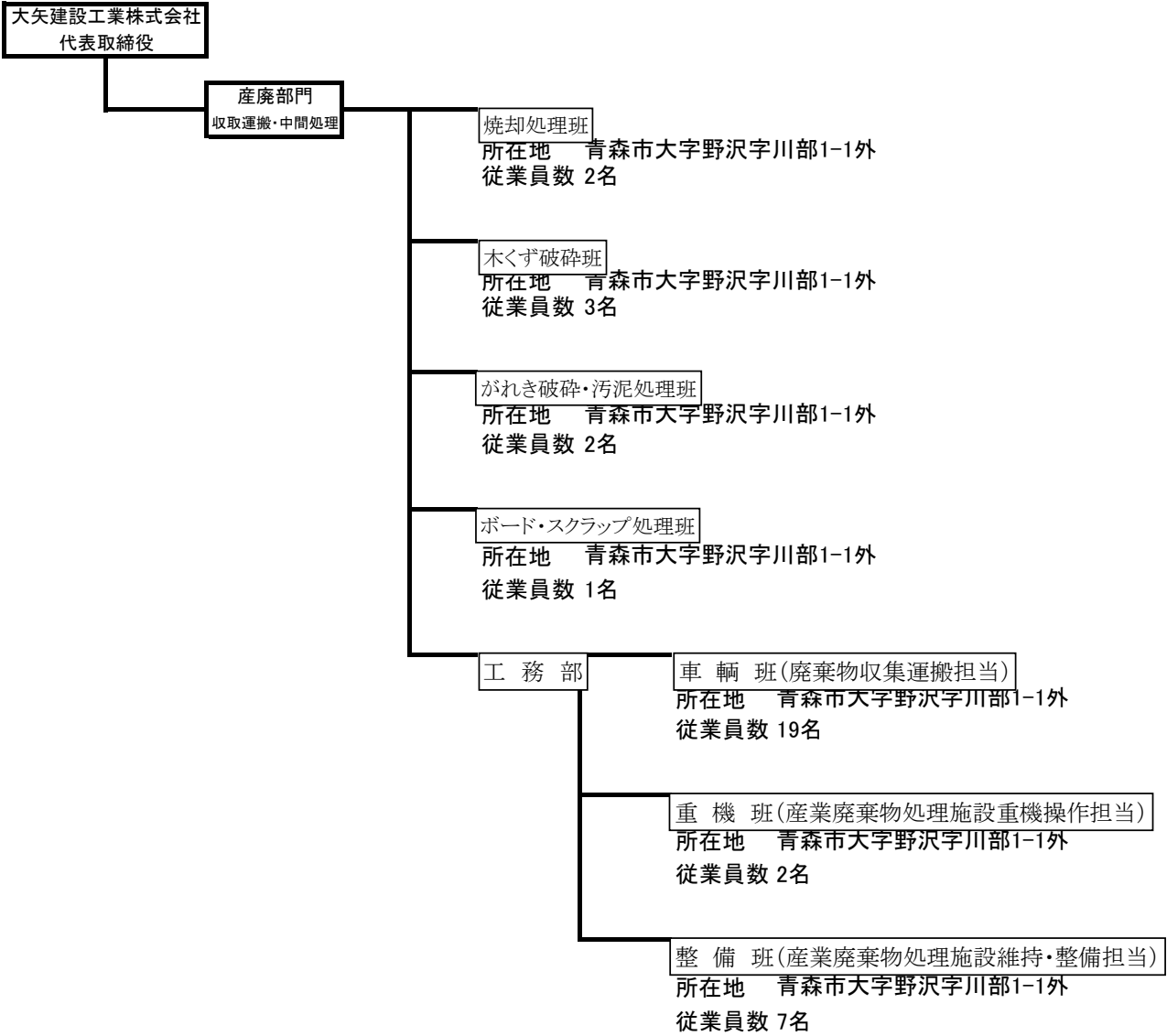
当社が現在計画・構築しているBCPはおおよそ90%ほど完成しており
完成させた後は全社員で共有し、災害に備えるとともに被災した場合の
地域の復興の一助となるよう努めてまいります。

VII. 廃棄物処理に係る組織の概要

事業所名		大矢建設工業株式会社					
代表者名		代表取締役 大矢 進					
所在地		青森県青森市大字野沢字川部63番地					
環境管理責任者		工事部部長 横山 義浩					
エコアクション2.1担当者		営業部環境課課長 大矢 一光					
連絡先	電話	017-739-5205		ファクス	017-739-6848		
	E-mail	ooyaken@eos.ocn.ne.jp					
	UCL	http://www.ooyaken.co.jp					
事業活動の内容	収集運搬量	26,208.74 t					
	処分量	37,049.39 t					
	製造量	29,656.57 t					
法人設立年月日		昭和63年9月29日		資本金	20 百万円	売上高	2645 百万円
許可の内容	許可名／許可番号	年月日			事業計画・事業の範囲（事業区分、廃棄物の種類）		
	産業廃棄物処分業 10822020616	許可	平成30年8月31日		【焼却】汚泥、廃油、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残さ、ゴムくず 【破碎】金属くず（廃蛍光管に限る）廃プラスチック類、ゴムくず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類、紙くず、木くず、繊維くず、（これらのうち、金属くず、廃プラスチック類、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くずは水銀使用製品産業廃棄物を含む） 【切断】金属くず、廃プラスチック類 【圧縮】廃プラスチック類、紙くず 【造粒固化】汚泥（無機性のものに限る。） 【破碎（圧縮固化）】廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず （これらのうち、自動車等破砕物及び特別管理産業廃棄物であるものを除く。）		
		有効	令和7年6月23日				
	産業廃棄物収集運搬業 00200020616	許可	平成30年9月4日				
		有効	令和7年8月31日				
	特別管理産業廃棄物収集運搬業 00250020616	許可	令和3年3月5日				
有効		令和10年2月24日					
設備	設備名	能力・産廃の種類	台数	設備名	能力・産廃の種類	台数	
	焼却施設	汚泥 21.48 t/24h 廃油 31,932 t/24h 廃プラスチック類 18,936 t/24h 産業廃棄物 38,544 t/24h	1	トラクタ	収集運搬	1	
	破砕施設（RZS-1000G）	廃プラスチック類 2 t/8h	1	セミトレーラー	収集運搬	2	
	破砕施設（リバイマンガラクラッシャーRP0310）（移動式：駐機場での稼働を含む）	がれき類 ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず 864 t/8h	1	セルフトラック	収集運搬	2	
	破砕施設（ガラバゴスBR350JG）（移動式：駐機場での稼働を含む）	がれき類 ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず 1280 t/8h	1	4 t ユニック付トラック	収集運搬	5	
	破砕施設（移動式）（重機アタッチメント）	別紙許可証の通り	8	2 t ユニック付トラック	収集運搬	1	
	破砕施設（リフォレBR200T）（移動式：駐機場での稼働を含む（条件付き））	木くず 281 t/8h	1	12 t ダンプトラック	収集運搬	1	
	破砕施設（ガラバゴスBR350JG）（移動式：駐機場での稼働を含む（条件付き））	がれき類 936 t/8h	1	10 t ダンプトラック	収集運搬	4	
	圧縮施設（1100A）	廃プラスチック類 14.7 t/8h 紙くず 9 t/8h	1	4 t ダンプトラック	収集運搬	2	
	切断施設（移動式：アタッチメントカッター）	切断力87t、240t、180t	3	2 t ダンプトラック	収集運搬	3	
	造粒固化施設（リテラBZ210-1）（移動式：駐機場での稼働を含む）	汚泥 800m ³ /8h	1	1 t トラック	収集運搬	1	
	破砕施設（圧縮固化）（MS-2000、NRD-1150P）	廃プラスチック類 紙くず 木くず 繊維くず 10.4 t/8h	1	10 t コンテナトラック	収集運搬	3	
	破砕施設（MHM-200BH）	木くず 97.9 t/8h	1	8 t コンテナトラック	収集運搬	1	
	破砕施設（ハンマークラッシャーNK-HC1型）	ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず（廃ガラスに限る。） 2 t/8h	1	4 t コンテナトラック	収集運搬	1	
	破砕施設（NCR-110F）	廃プラスチック類 金属くず ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず（廃蛍光管に限る） 14.4 t/8h	1	2 t コンテナトラック	収集運搬	5	
	破砕施設（HB-180Ⅲ）	廃プラスチック類 40.57 t/8h 木くず 62.61 t/8h 紙くず 39.46 t/8h 繊維くず 40.00 t/8h ゴムくず 55.38 t/8h	1	10 t バキュームダンパートラック	収集運搬	2	
				4 t バキュームダンパートラック	収集運搬	1	



廃棄物処理に係る組織図



受託した産業廃棄物の処理量

2023年度

処理方法等		廃棄物等種類	処分方法等	処理量 t
収集運搬		がれき類		14402.26
		ガラス・陶磁器くず		1124.41
		金属くず		190.76
		廃石膏ボード類		869.63
		紙くず		49.98
		繊維くず		68.91
		廃プラスチック類		764.78
		木くず		3309.28
		廃蛍光管		5.28
		建設汚泥		4729.93
		混合廃棄物		693.52
収集運搬量合計				26208.74
中間処理		がれき類	破砕	20574.66
		ガラス・陶磁器くず	破砕	2352.65
		金属くず	切断	272.55
		廃石膏ボード類	破砕	1449.38
		紙くず	焼却 圧縮 破砕	99.96
		繊維くず	焼却 圧縮 破砕	172.28
		廃プラスチック類	焼却 圧縮 破砕	1274.61
		木くず	焼却 破砕	4727.54
		廃蛍光管	破砕	8.8
		建設汚泥	造粒固化	4729.93
		混合廃棄物	焼却 破砕 切断	1387.03
うち再資源化等		がれき類		20574.66
		金属くず		272.55
		紙くず		19.99
		繊維くず		0
		廃プラスチック類		0
		木くず		3782.03
		汚泥		4729.93
		混合廃棄物		277.41
		再資源化等量小計		29656.57
中間処理合計				37049.39
最終処分				
最終処分量合計				0
中間処理後の産業廃棄物	最終処分	燃え殻	埋立	616.17
		ガラス・陶磁器くず	埋立	1493.37
		廃石膏ボード類	埋立	919.91
		混合廃棄物	埋立	4259.93
		廃蛍光管	埋立	6.2
	再資源化	廃石膏ボード	破砕	489.76
		廃蛍光灯	焙焼	2.6
		再資源化等量小計		492.36
中間処理後処分量合計				7787.94